

令和3年9月

令和3年 7月 ~ 9月期 実績
令和3年 10月 ~ 12月期 見通し

中小企業景況調査報告書

岩手県商工会連合会

主要景況項目の動き	2
業況天気図	3
全産業の推移	4
製造業の推移	7
建設業の推移	11
小売業の推移	15
サービス業の推移	19
全産業の過去データの推移 * 平成15年1月以降	23
[集計資料]	

D・Iとは

D・Iとは、ディフュージョン・インデックスの略です。これは、企業経営者の景気動向を表す指標として利用されています。

算出方法は、増加（上昇・好転）企業割合から減少（低下・悪化）企業割合を差し引いたものです。

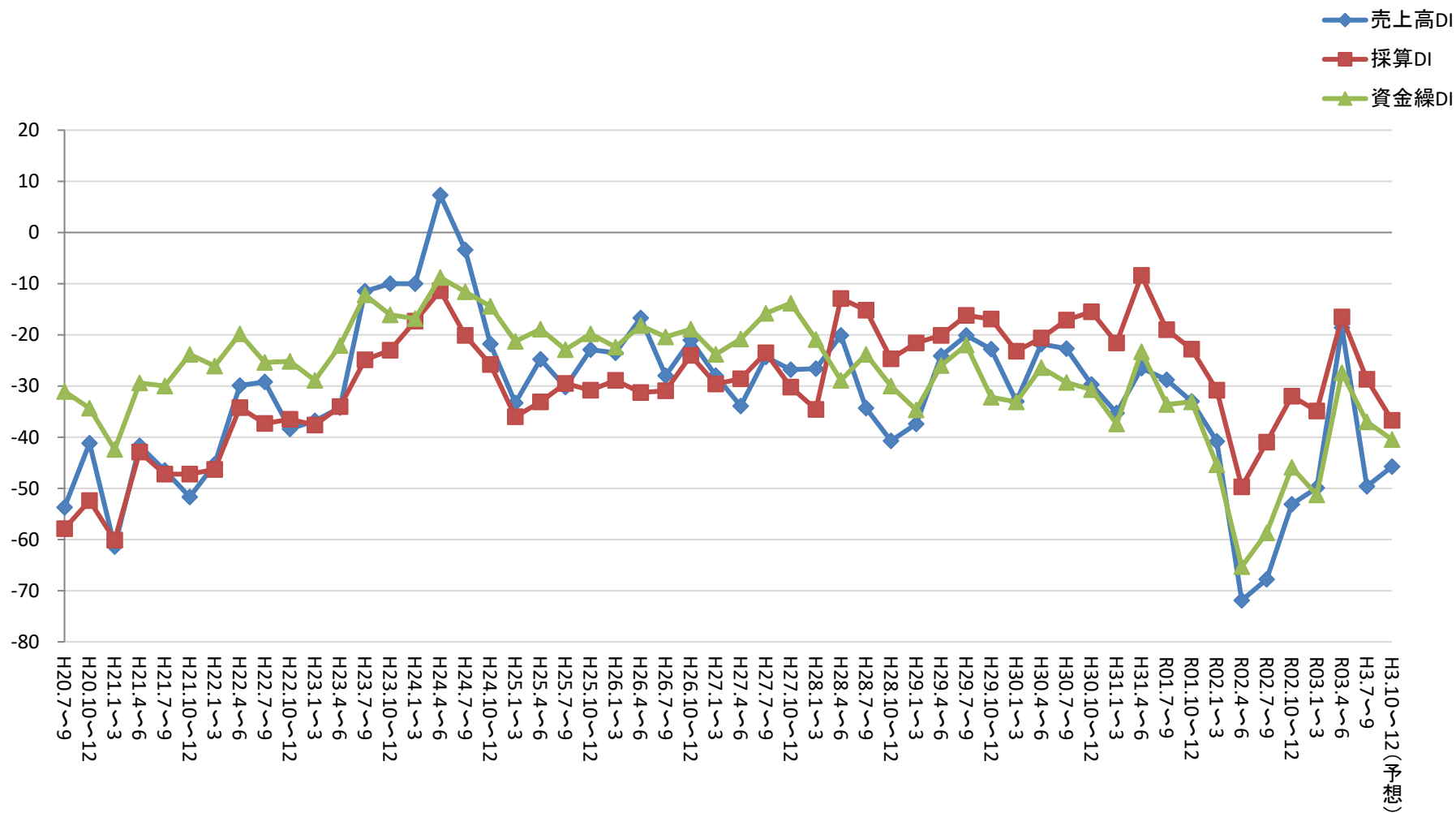
D・Iがプラスなら強気（楽観）、マイナスなら弱気（悲観）、原材料または商品の仕入単価の場合はプラスなら上昇気運、マイナスなら低下気運となります。

プラス、マイナス同数の場合はD・Iはゼロになります。





































たとえば、売上高増加企業50%、不変企業30%、減少企業20%の場合、D・Iは $50 - 20 = 30$ となり、全体として経営者の売上高に対する強気の度合いを表しています。






[岩手県 産業全体]

主要景況項目の動き ー前年同期比ー



業 況 天 気 図

業 種 \ 期 間	令和元年	令和2年			令和3年			(見通し)	
	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月
製 造 業	 曇	 雨	 雨	 雨	 雨	 雨	 薄曇	 曇	 曇
建 設 業	 雨	 薄曇	 雨	 雨	 雨	 雨	 曇	 雨	 雨
小 売 業	 雨	 雨	 雨	 雨	 雨	 雨	 雨	 雨	 雨
サ ー ビ ス 業	 曇	 雨	 雨	 雨	 雨	 雨	 曇	 雨	 雨

売上高DI	100.0 ~30.1	30.0 ~10.1	10.0 ~△10.0	△10.1 ~△30.0	△30.1 ~△100.0
表 示	 快晴	 晴	 薄曇	 曇	 雨

全産業の推移

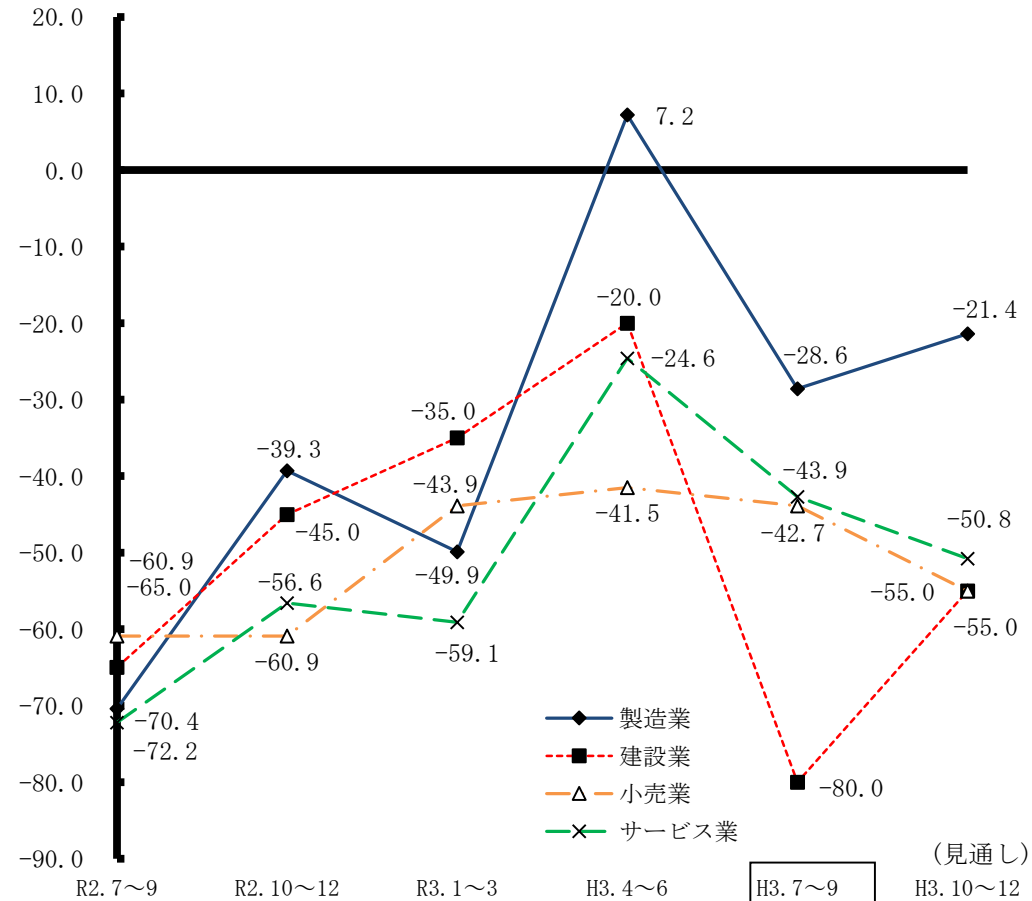
売上高

全業種において売上高D・Iが悪化 建設業が大幅に悪化

今期は、全業種が悪化となりました。特に建設業は60.0ポイントの大幅な低下となり、△80.0まで悪化しました。前期9年ぶりにプラス域に達していた製造業も35.8ポイント低下の△28.6、サービス業が19.3ポイント低下の△43.9、また、小売業も小幅ながら低下して△42.7となっています。

来期は、今期大幅に悪化した建設業、製造業において売上高D・Iが改善しますが、サービス業、小売業においては今期に引き続き悪化する見通しとなっております。

※建設業の売上高は完成工事高



全産業の推移

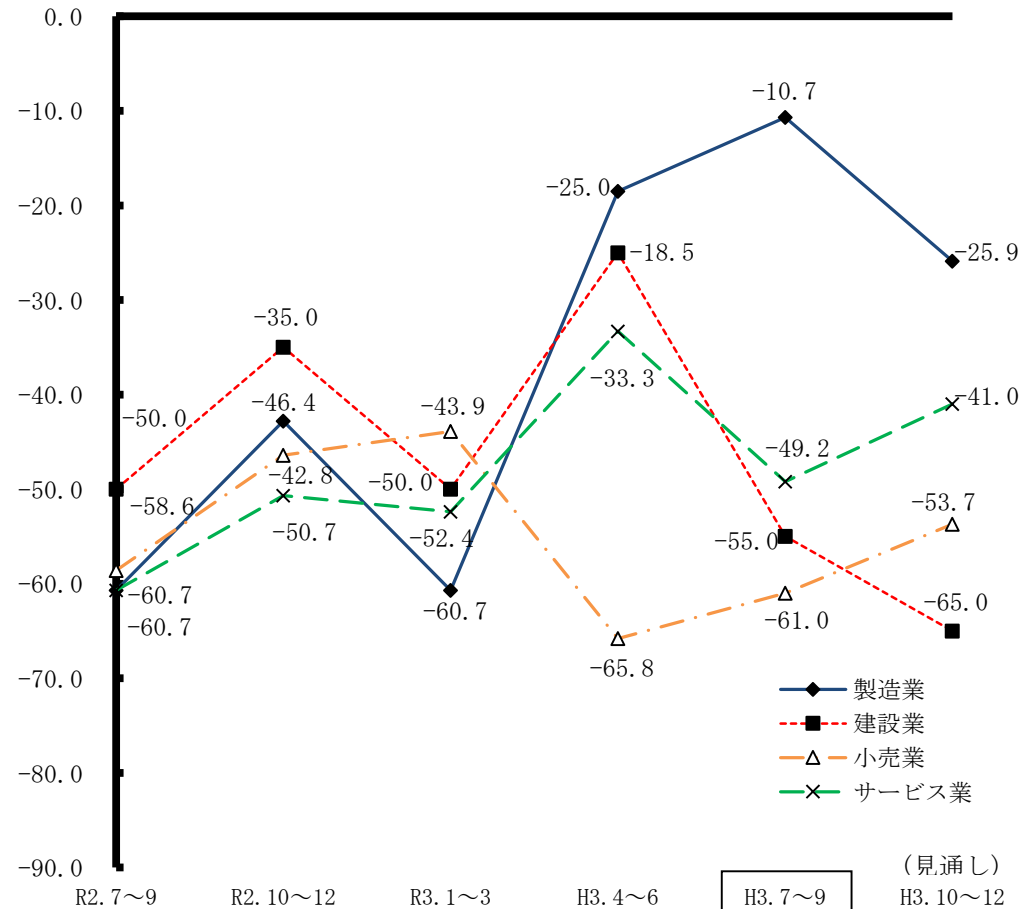
採算

**建設業、サービス業において採算D・Iが悪化
製造業、小売業は改善**

今期の採算D・Iは、製造業が前期に引き続いて上昇し、△10.7まで改善、前期大幅に悪化していた小売業も上昇に転じ、△61.0まで改善しました。他方、建設業は36.5ポイント低下の△55.0、サービス業が15.9ポイント低下の△49.2まで悪化しました。

来期は、サービス業が上昇に転じ、小売業も今期に引続き上昇が見込まれていますが、建設業は今期に引続き低下、2期連続して上昇していた製造業も低下に転じることが予想されています。

※採算は各業種とも経常利益



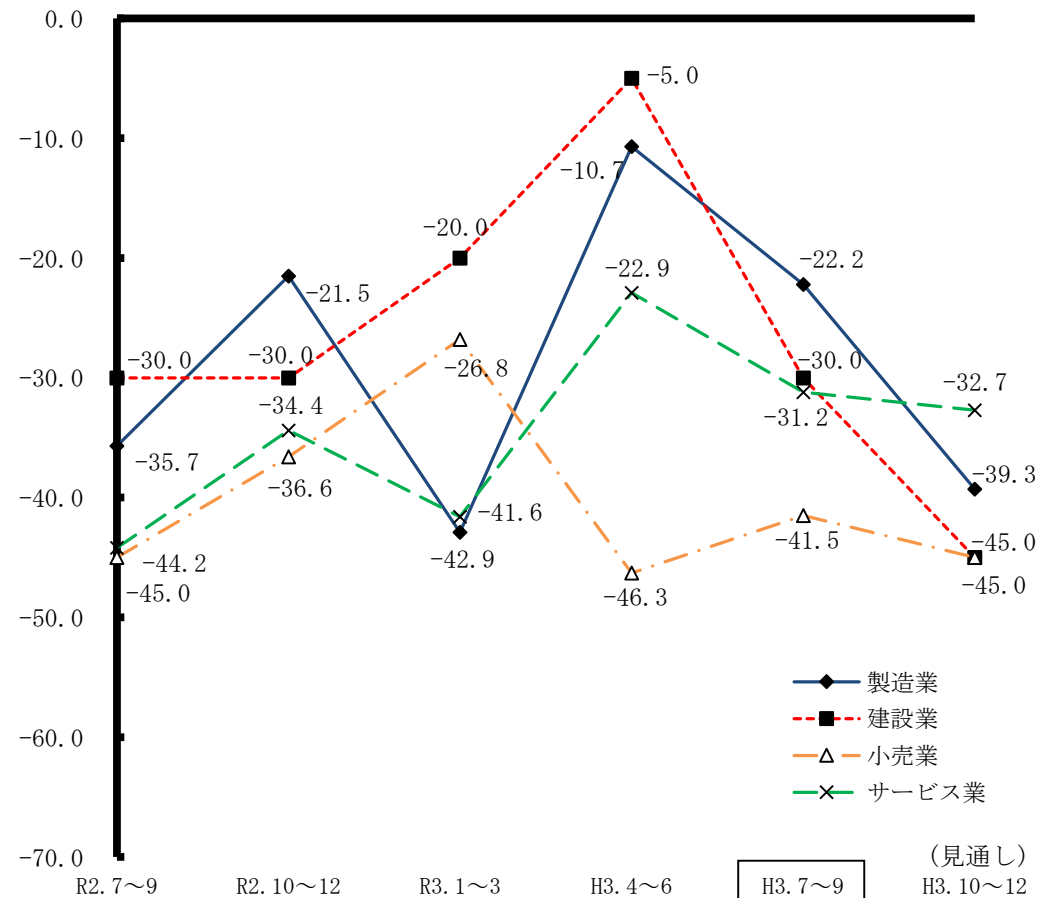
全産業の推移

資金繰り

**建設業、製造業、サービスで資金繰りが悪化
小売業は改善に転じる**

今期は、2期連続して上昇していた建設業が25.0ポイント低下して△30.0まで悪化しました。また、製造業も11.5ポイント低下して△22.2、サービス業も8.3ポイント低下して△31.2まで悪化しています。前期大幅に低下していた小売業は上昇に転じ、△41.5となっています。

来期は、全業種において資金繰りが悪化することが予想されております。特に、建設業、製造業では今期に引続き大幅に悪化することが予想されています。



製造業の推移

売上高

<今 期>

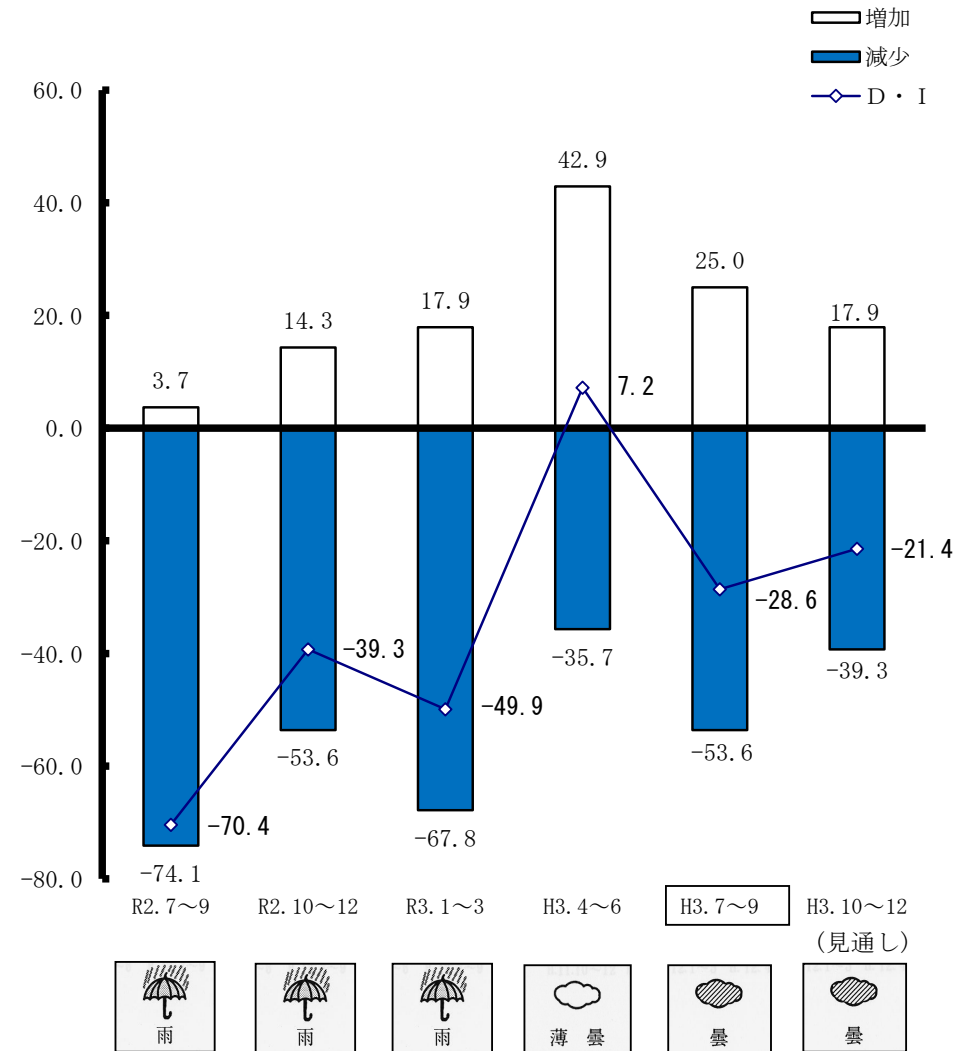


<来期見通し>



今期は、売上高増加企業の割合が17.9ポイント減少し、売上高減少企業の割合が17.9ポイントの増加となったことから、売上高D・Iは35.8ポイントの大幅な低下となって再びマイナス域となり△28.6まで悪化しています。

来期は、売上高の増加を予想する企業割合が減少するものの、売上高の減少を予想する企業割合も減少することから、売上高D・Iは改善に転じる見通しです。

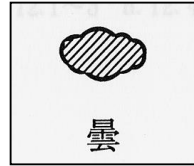


製造業の推移

採算

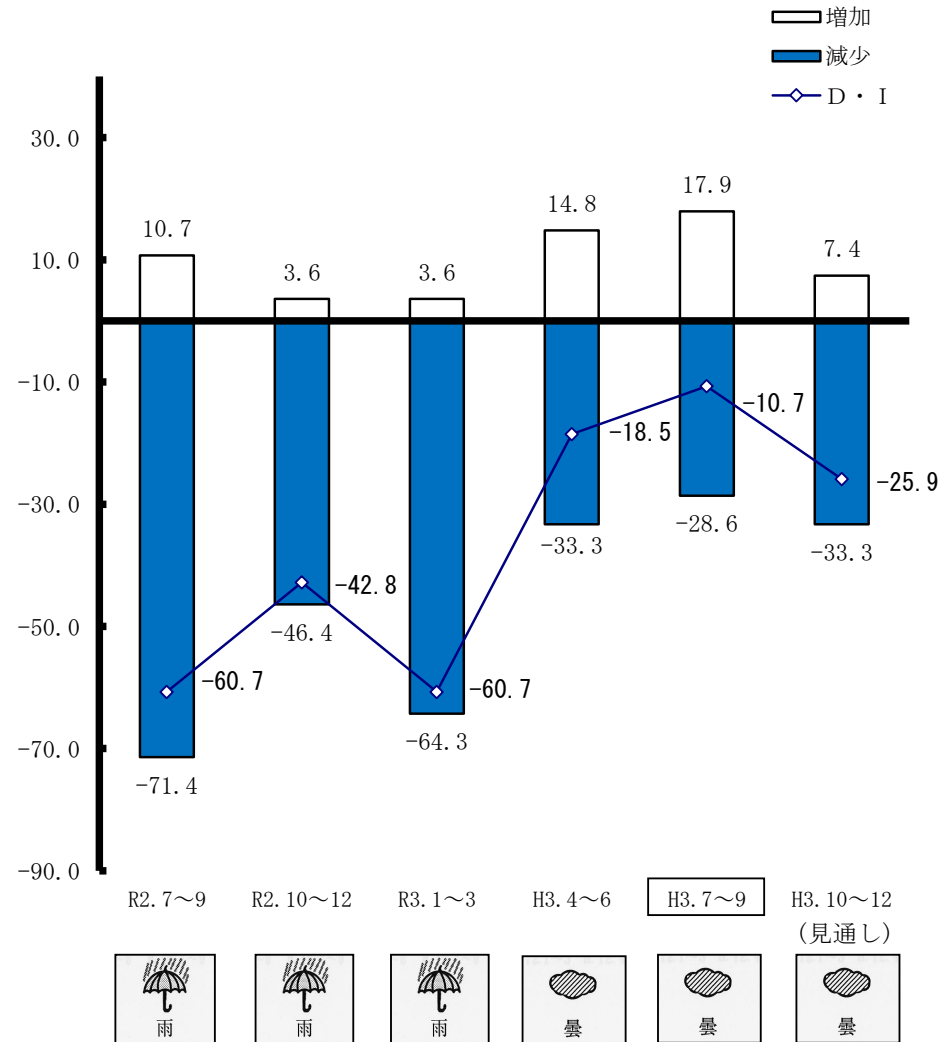
<今 期>

<来期見通し>



今期は、採算が改善した企業の割合が3.1ポイント上昇し、採算が悪化した企業の割合が4.7ポイントの減少となり、採算D・Iは7.8ポイントの上昇となり△10.7まで改善しました。

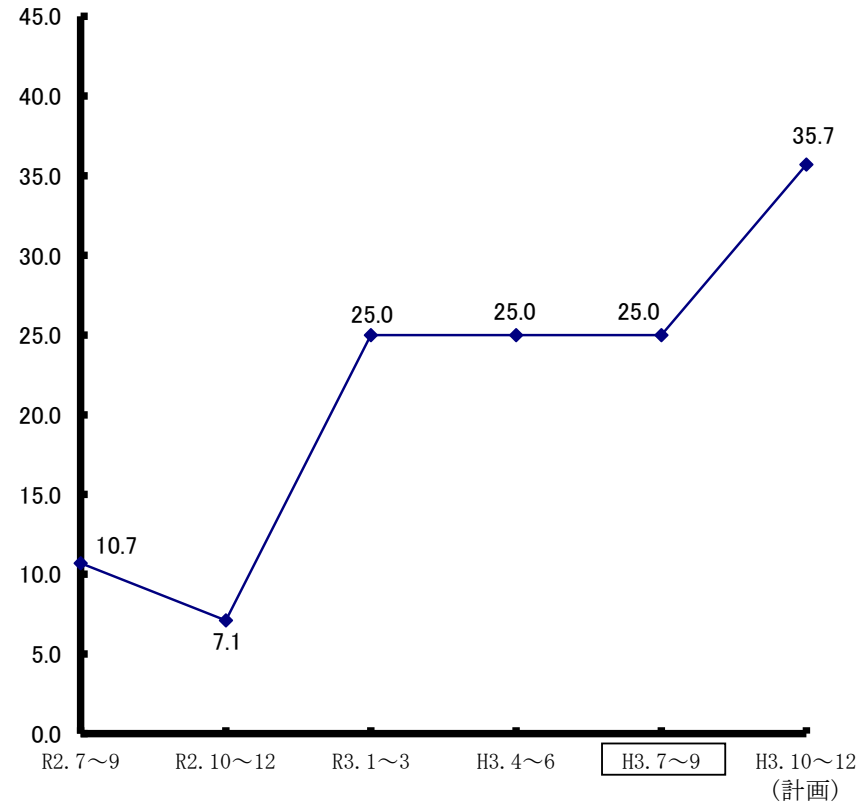
来期は、採算の改善を予想する企業が減少し、採算の悪化を予想する企業割合が増加することから、採算D・Iは、再び悪化することが予想されています。



設備投資

今期設備投資を実施した企業数の割合は、前期と同じ水準となり、3期連続して25.0となり、比較的高い割合を維持しています。

来期は、設備投資を実施する企業数の割合は増加することが見込まれ、35.7まで上昇する見通しです。



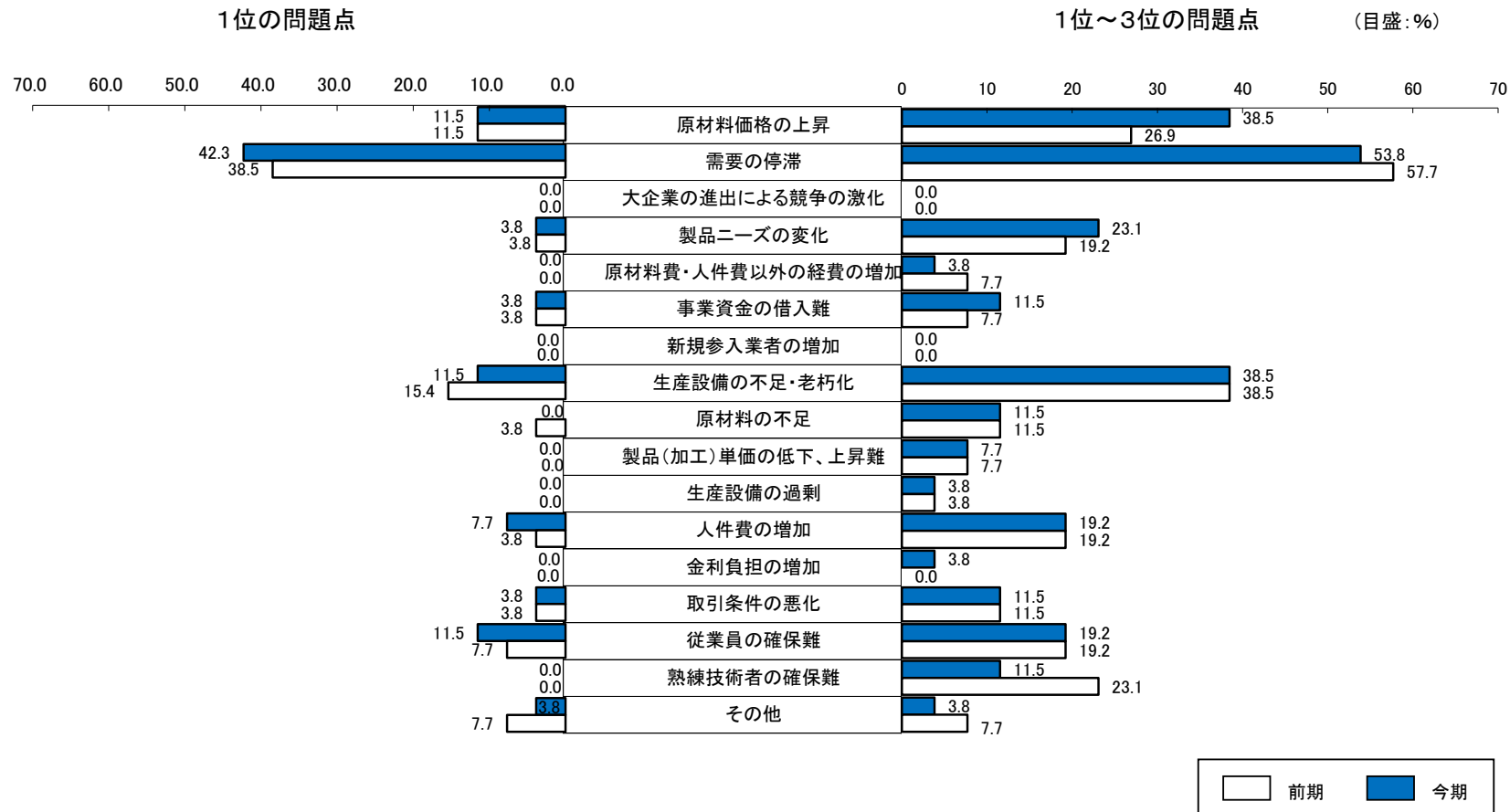
(注) この指標は、規模の大小にかかわらず、設備投資を実施した企業数の割合を示します。

製造業の推移

経営上の問題点

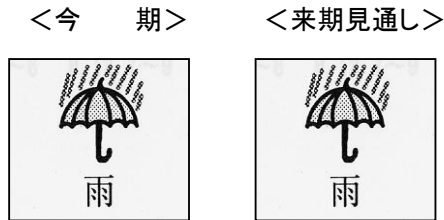
岩手県 製造業

経営上の問題点の状況(1位と1位~3位)



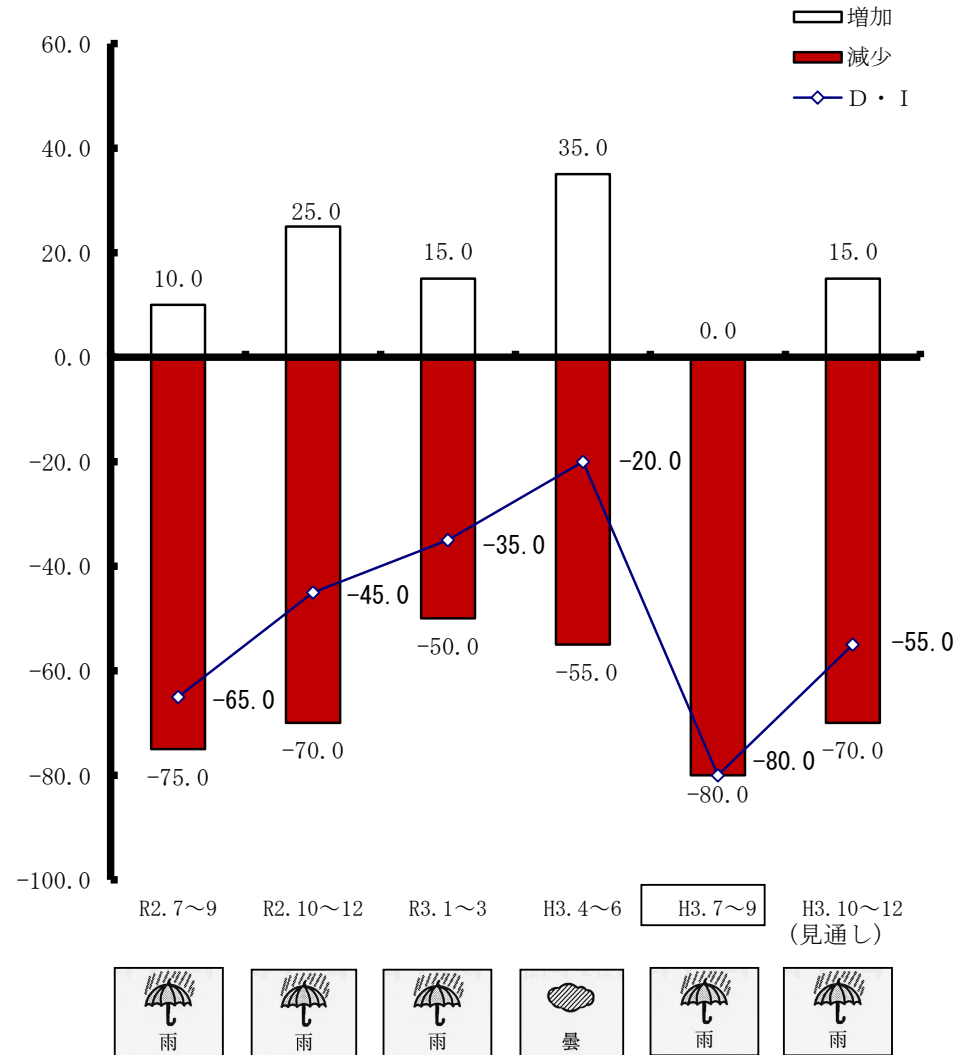
建設業の推移

売上高



3期連続して改善基調にあった建設業の売上高D・Iは、今期は、売上高が増加した企業割合が0.0となった一方、売上高が減少した企業割合が80.0ポイント増加したため、売上高 D・Iは大幅な低下となり△80.0まで悪化しました。

来期は、売上高の増加を予想する企業の割合が増加し、売上高の減少を予想する企業の割合が減少するため、売上高 D・Iは増加に転じ、△55.0まで回復することが予想されます。



※建設業の売上高は完成工事高



採算

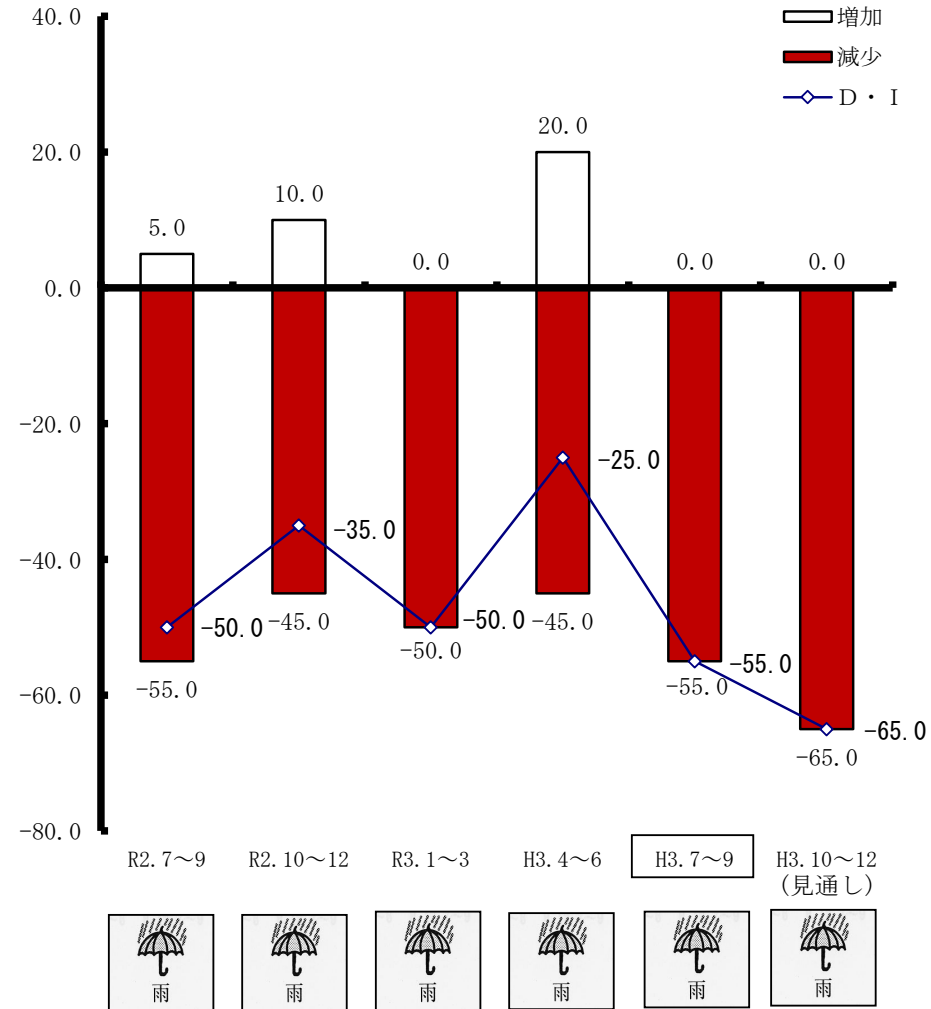
<今 期>

<来期見通し>



今期は、採算の好転を挙げた企業の割合が20.0ポイント減少して0.0まで低下し、また、採算が悪化した企業の割合が10.0ポイント増加したため、採算D・Iは30.0ポイントの低下となり、△55.0まで大幅に悪化しました。

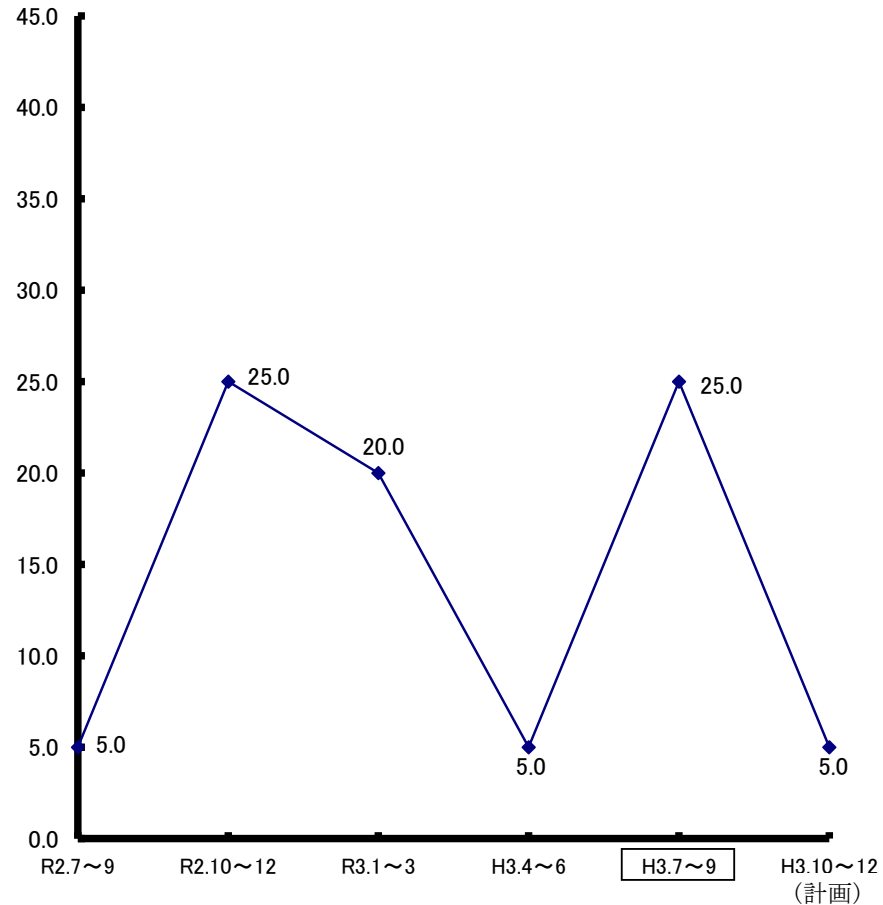
来期も、採算の好転を予想する企業がゼロにとどまり、採算の悪化を予想する企業割合は引き続き増加することが見込まれることから、採算D・Iは更に悪化することが予想されています。



設備投資

建設業において設備投資を実施した企業数の割合は、前期は5.0の水準にありましたが、今期は大幅に増加し25.0となっています。

来期は設備投資を実施する企業数の割合は再び減少に転じ、前期と同じレベルである5.0となる見通しです。

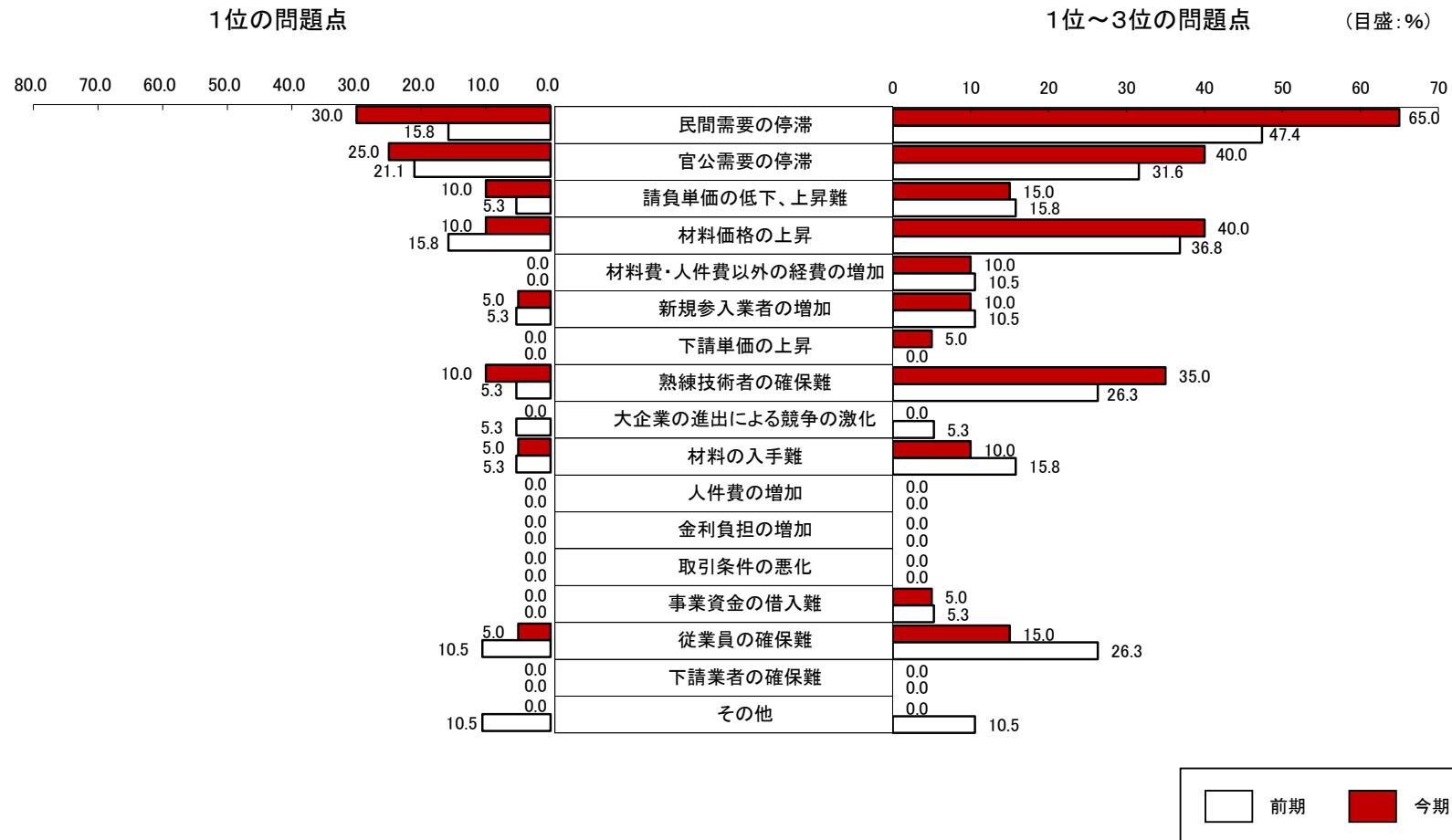


(注) この指標は、規模の大小にかかわらず、設備投資を実施した企業数の割合を示します。

経営上の問題点

岩手県 建設業

経営上の問題点の状況(1位と1位～3位)



小 売 業 の 推 移

売 上 高

<今 期>

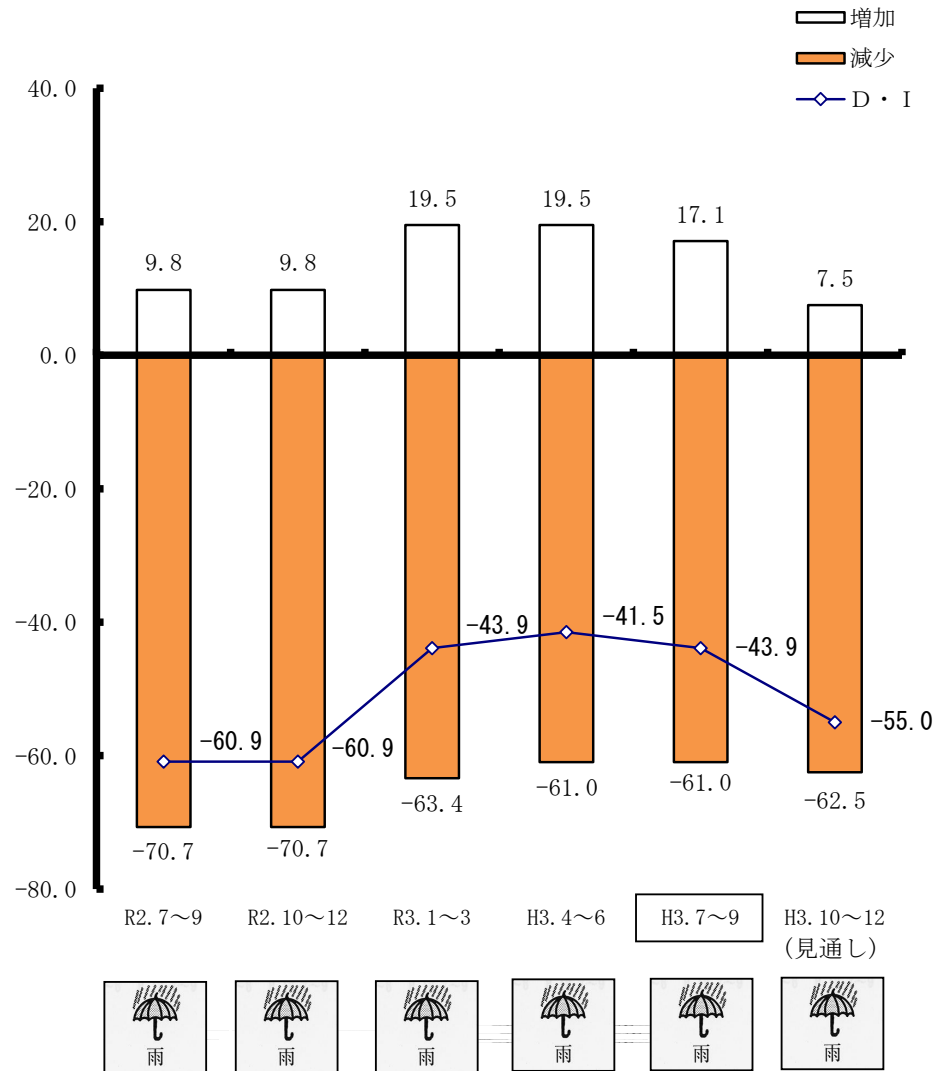


<来期見通し>



今期は、売上高減少企業の割合が前期と同じ水準にとどまったものの、売上高増加企業の割合が2.4ポイント減少したため、売上高D・Iは2.4ポイント低下して△43.9まで悪化しました。

来期は、売上高の増加を予想する企業割合が引き続き減少する一方、売上高減少を予想する企業割合も引き続き増加するため、売上高D・Iは更に悪化する見通しです。



小 売 業 の 推 移

採 算

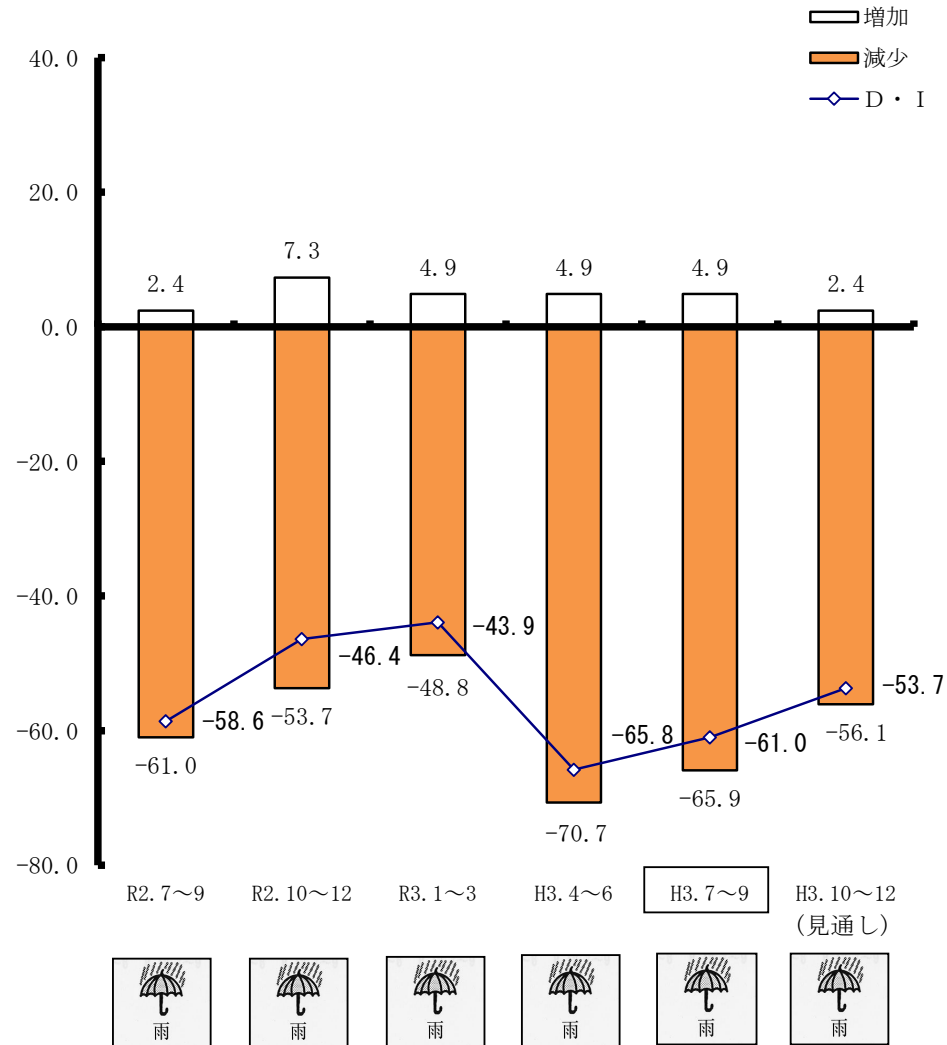
<今 期>

<来期見通し>



今期は、採算が好転した企業の割合は前期と同様低いレベルにとどまった一方で、採算が悪化した企業割合が4.8ポイント減少したため、採算D・Iは4.8ポイントの上昇となり△61.0まで改善しました。

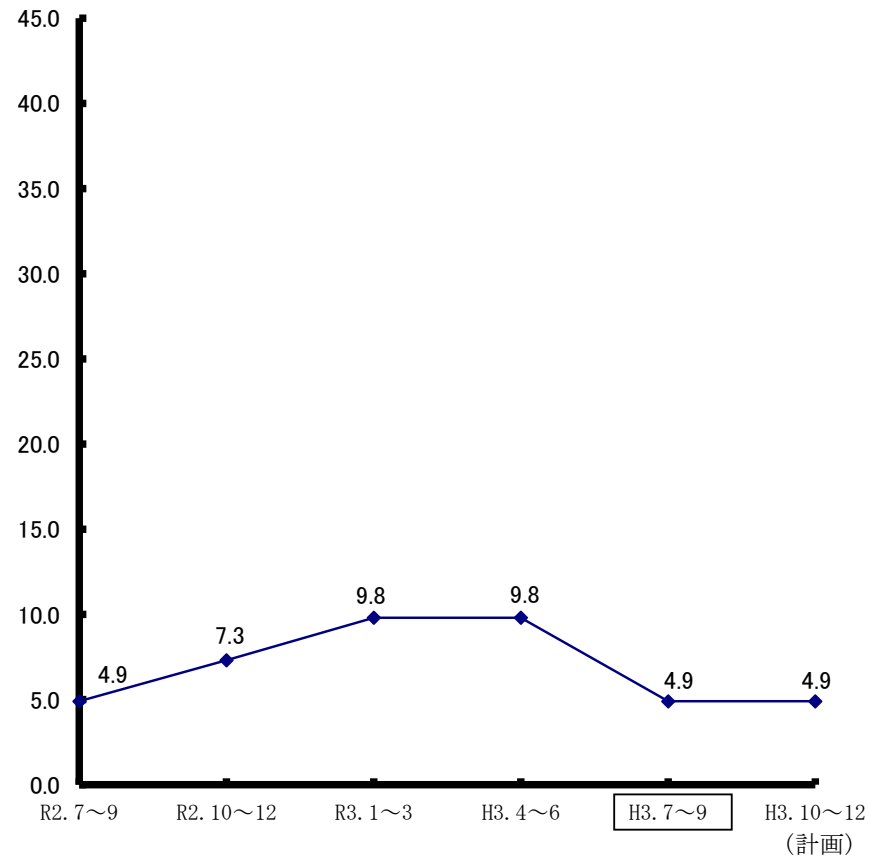
来期は、採算の好転を予想する企業割合は減少するものの、採算の悪化を予想する企業割合が減少するため、採算D・Iは上昇に転じ、△53.7までマイナス幅を縮小する見通しです。



設備投資

小売業において今期設備投資を実施した企業数の割合は、減少に転じ、4.9の低いレベルにとどまっています。

来期は、設備投資を計画している企業数の割合は今期と同じ低いレベルにとどまる見通しです。



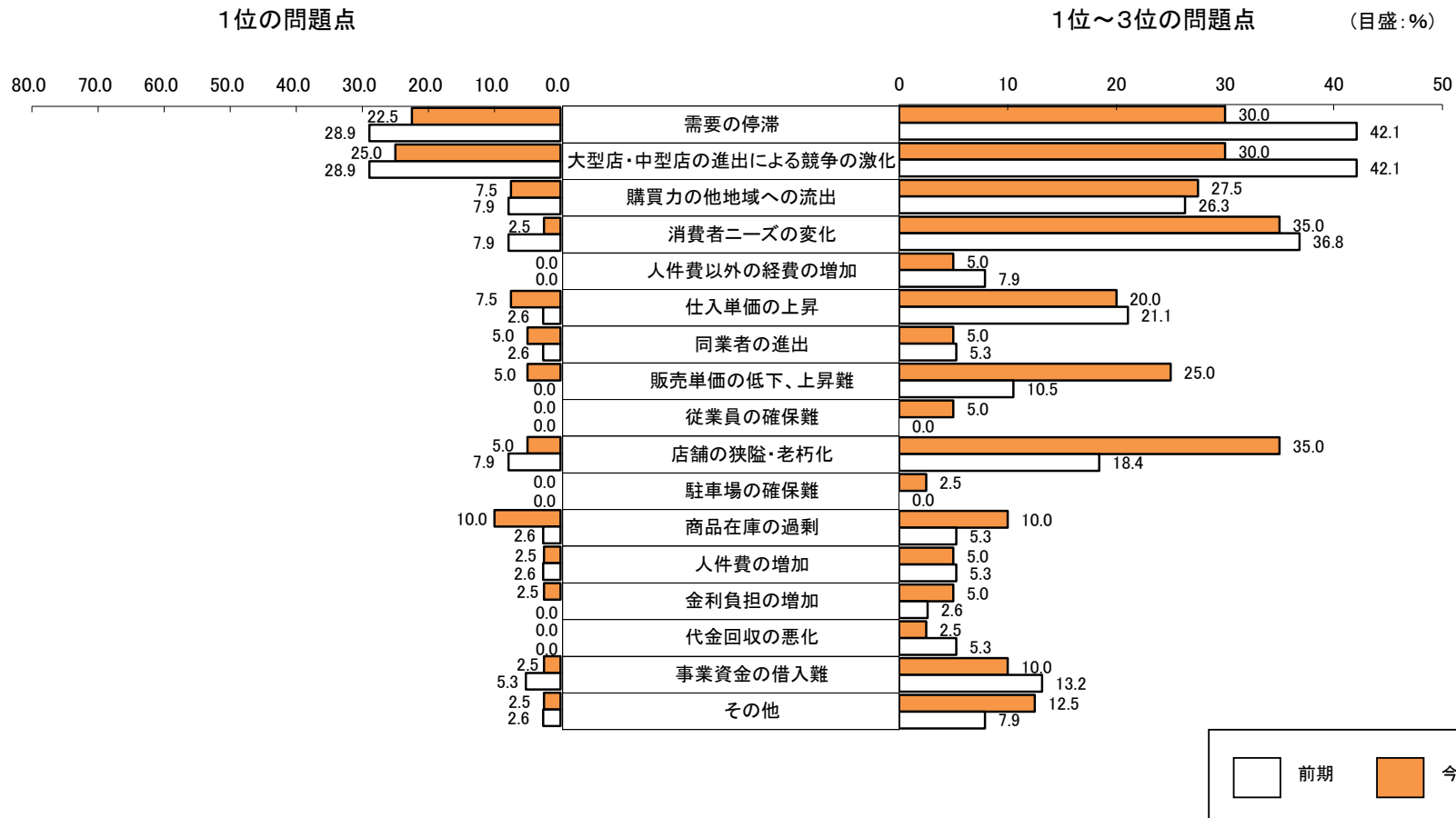
(注) この指標は、規模の大小にかかわらず、設備投資を実施した企業数の割合を示します。

小売業の推移

経営上の問題点

岩手県 小売業

経営上の問題点の状況(1位と1位~3位)



サービス業の推移

売上高

<今 期>

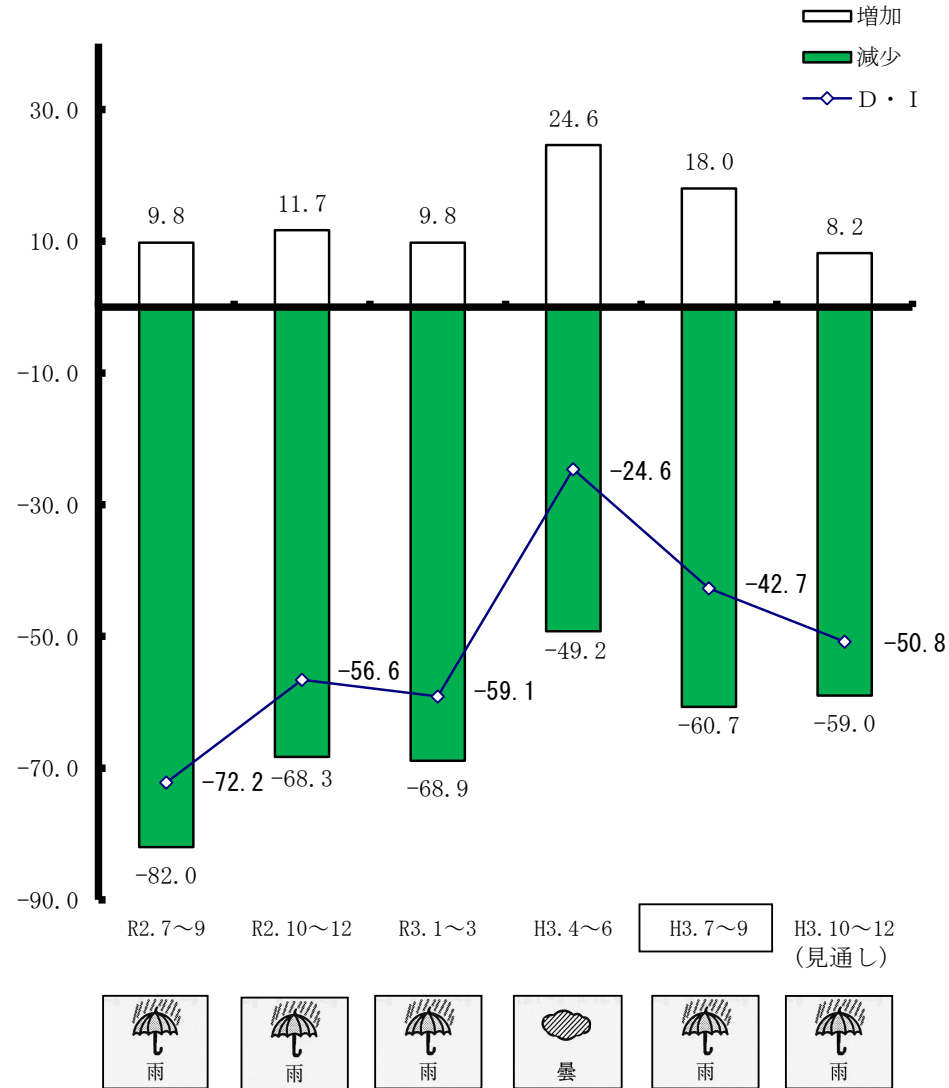


<来期見通し>



今期は、売上高増加企業の割合が6.6ポイント減少し、また、売上高減少企業の割合が11.5ポイント増加したため、売上高D・Iはマイナス幅を広げ、△42.7まで悪化しました。

来期は、売上高増加を予想する企業の割合が今期に引続き減少し、売上高減少を予想する企業割合がほぼ今期と横ばいとなることから、売上高D・Iは更に低下して、△50.8まで悪化する見通しです。



サービス業の推移

採算

<今 期>

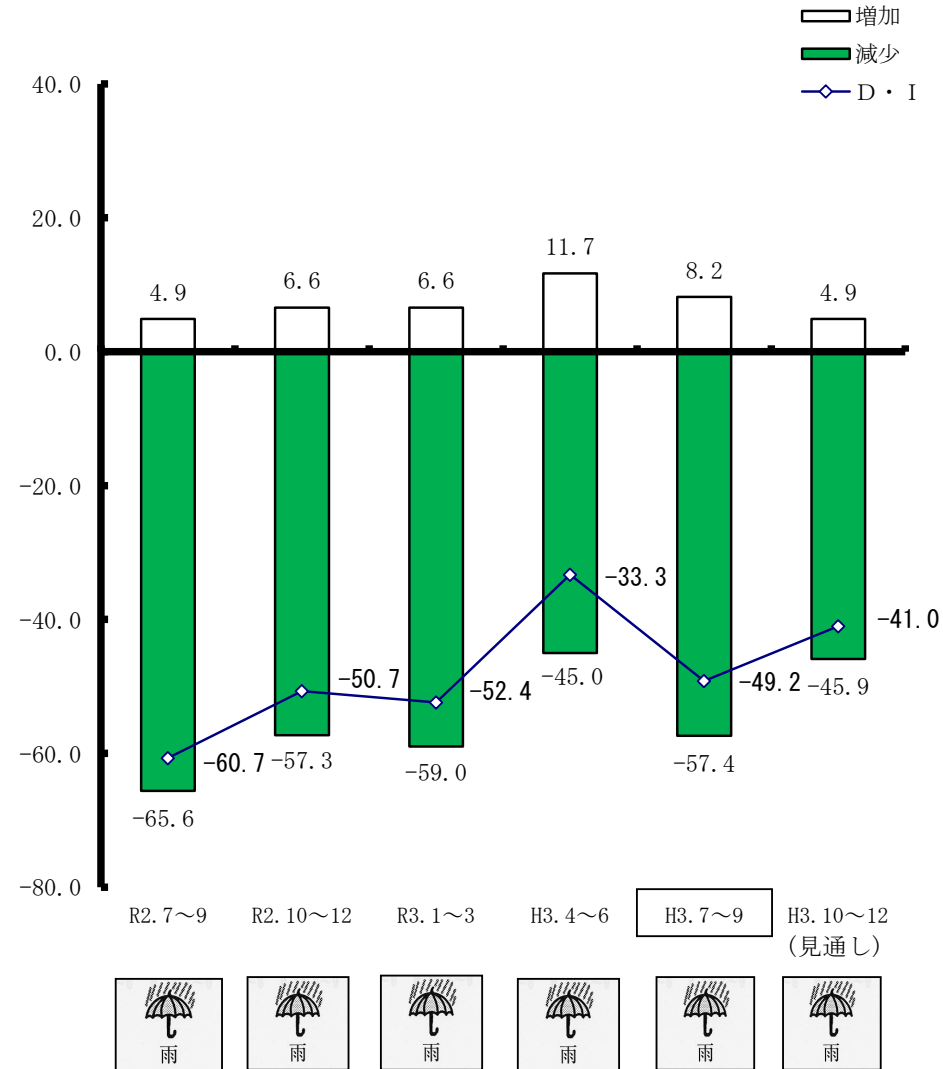


<来期見通し>



今期は、採算が改善した企業割合は3.5ポイント減少し、採算が悪化した企業割合が12.4ポイント増加したことから、採算D・Iは15.9ポイント低下し、△49.2まで悪化しました。

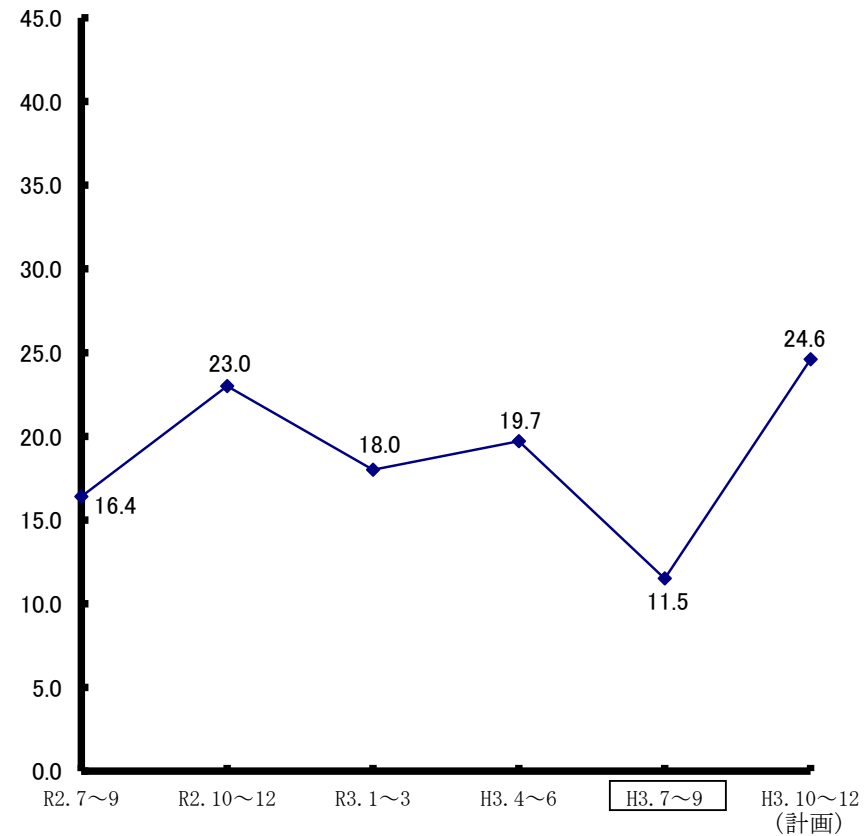
来期は、採算の好転を予想する企業割合が今期に引続き減少するものの、採算の悪化を予想する企業割合が減少することから、採算D・Iは上昇に転じ、△41.0まで回復する見通しです。



設備投資

前期上昇に転じていた設備投資を実施した企業数の割合は、再び減少に転じており、11.5にとどまりました。

来期は、設備投資を実施する企業数の割合は再び増加に転じ、24.6の比較的高いレベルまで上昇する見通しです。



(注) この指標は、規模の大小にかかわらず、設備投資を実施した企業数の割合を示します。

サービス業の推移

経営上の問題点

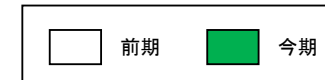
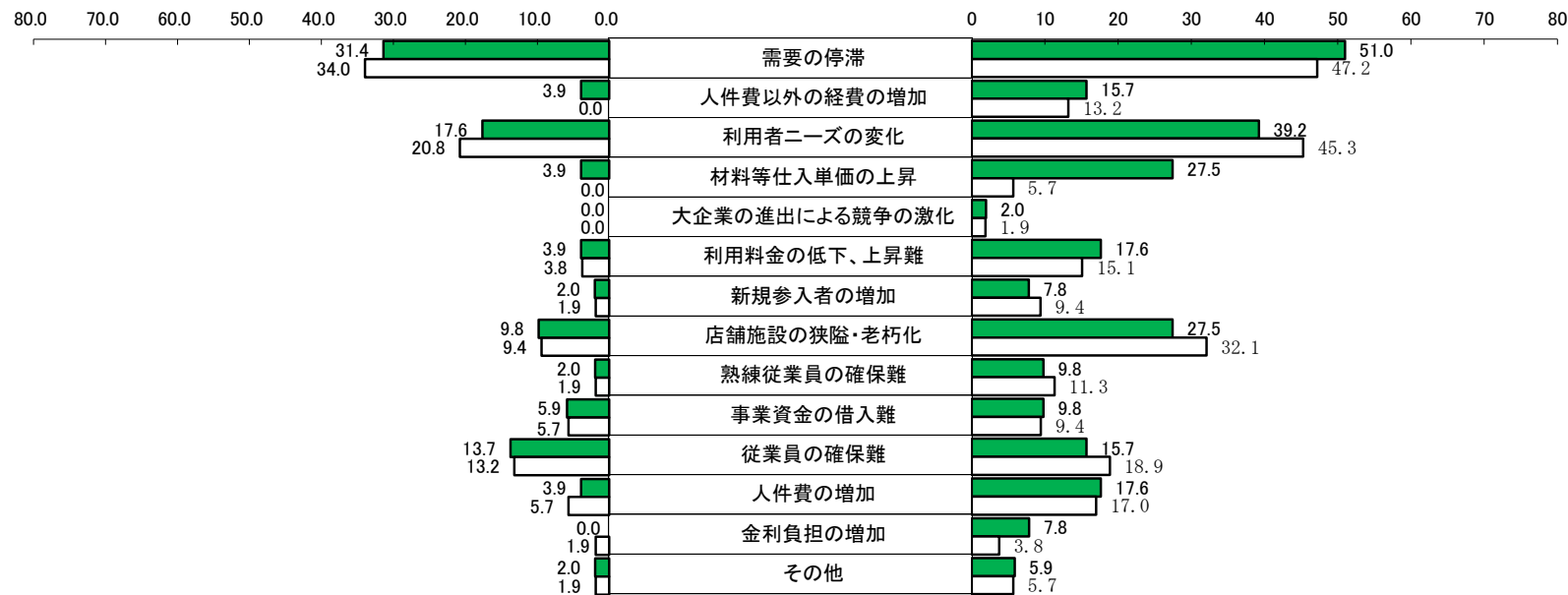
岩手県 サービス業

経営上の問題点の状況(1位と1位~3位)

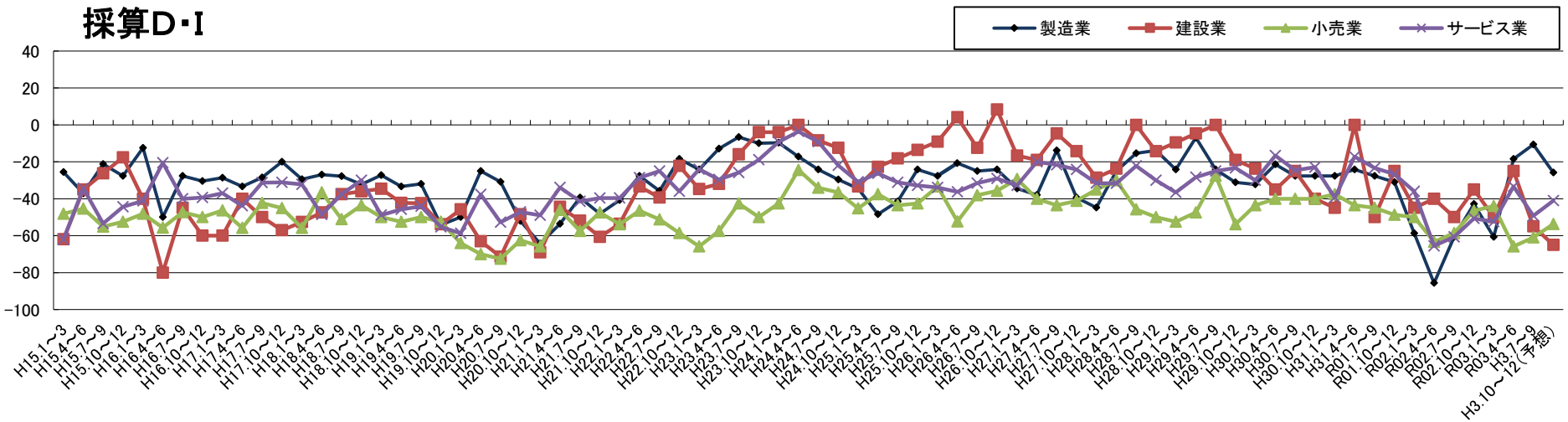
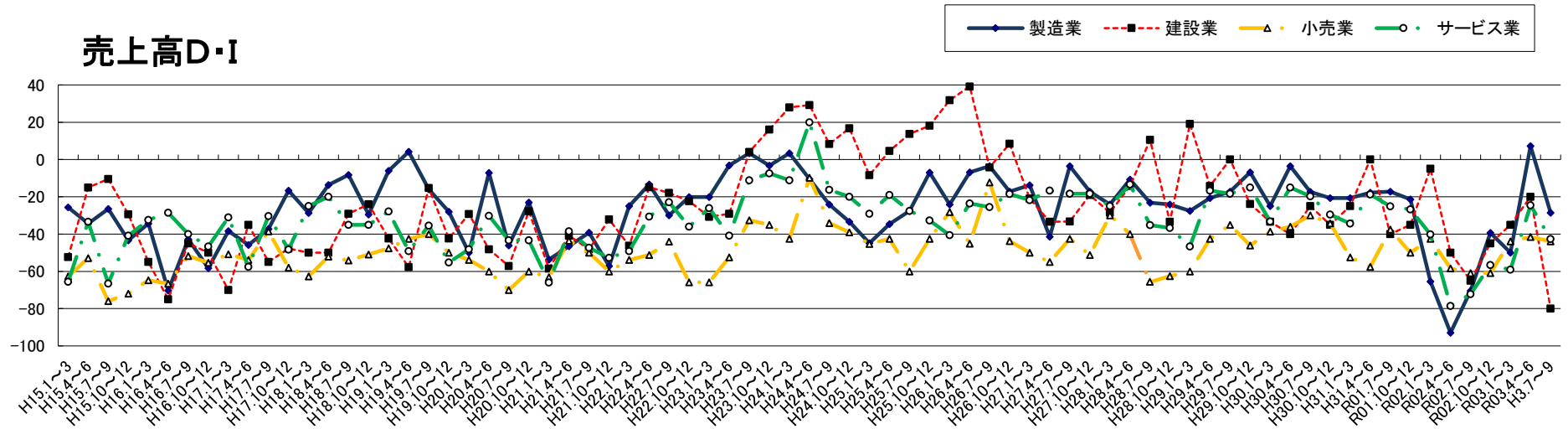
1位の問題点

1位~3位の問題点

(目盛:%)



全産業の過去データの推移(平成15年1月以降)



集 計 資 料

調 査 要 項

1. 調 査 対 象 (1) 対象地区 県内10商工会地区 八幡平市、葛巻町、矢巾町、平泉、住田町
(商工会名) 大槌、岩泉、野田村、洋野町、一戸町
- (2) 対象企業数 150 企業
- (3) 回答企業数 150 企業
2. 調 査 対 象 期 間 令和3年7月～9月を対象とし、調査時点は令和3年9月1日としました。
3. 調 査 方 法 (1) 商工会の経営指導員が訪問面接し、聞き取りにより行いました。
(2) 調査対象地区の設定は、商工会地区市町村人口規模別の実態を勘案して行い、調査対象事業の抽出は、業種規模等有意選出により行いました。

4. 対象企業等内訳

業種	項目	対 象 企 業 数	回 答 企 業 数	回 答 率 (%)
製造業 (地域産業)		28 (18.7)	28 (18.7)	100.0
建 設 業		20 (13.3)	20 (13.3)	100.0
小 売 業		41 (27.3)	41 (27.3)	100.0
サ ー ビ ス 業		61 (40.7)	61 (40.7)	100.0
		150 (100.0)	150 (100.0)	100.0

(注) カッコ内の数字は、構成比 (%) を表す。

5. そ の 他 本報告書中のD・Iとは、ディフュージョン・インデックス (景気動向指数) の略で、各調査項目についての増加 (上昇、好転、長期化) 企業割合と減少 (低下、悪化、短期化) 企業割合の差を示すものであります。